

第31回「大阪の消防大賞」受賞者

消防職員の部

所属	受賞者	功 績	概 要
吹田市 消防本部	総務予防室 山野井 潤 氏	平成 27 年 8 月、家族と京都府舞鶴市へ海水浴に来ていた山野井消防士は沖合で男子中学生 2 人がおぼれていると聞き、救助に向かった。 悪天候と高波で危険な状況のなかを約 50m泳ぎ、持っていた浮輪と近くの海の家のロープを使って 2 人を救助した。2 人は命に別条なかった。 職務外の場所、時間でも的確な判断と勇気ある行動で消防人の職務を果たした。	
大阪狭山市 消防本部	大阪狭山市消防署 堀江 康信 氏	平成 27 年 2 月、駅伝観戦中に目の前で走者の男性が突然倒れた。男性は心配停止状態だったが、堀江消防司令補は近くにいた人に 119 番通報を指示。すぐに胸骨圧迫と自動体外式除細動機（AED）で蘇生を試み、男性は救急車が到着する前には意識が戻った。 一刻を争う状況で堀江消防司令補の的確かつ迅速な行動のおかげで、男性は後遺症もなく回復した。	
枚方寝屋川 消防組合 消防本部	枚方消防署本署 2 部（15 人）	「もう死ぬ！」。ビルの 6 階で女性が発作的に窓の外に身を乗り出していた。 平成 27 年 10 月、枚方市内。「そんなところにいたら危ないから、とりあえず中で話を聞かせて」。 女性の気を静め、最後には飛び降り进行いとどまらせた。いたずらに刺激しては危険な状況で、救助隊は冷静な判断と懸命の説得で女性を無事救出した。	
堺市消防局	警防部救急 救助課（3 人）	高齢者の体調、病歴、服用薬、家族の連絡先などを緊急時にすぐわかるよう記入する「情報連絡シート」や、救急車が到着するまでにどんな行動（アクション）をすればいいかを書いた「アクションカード」など独自の手法を考案し、増加する老人福祉施設の救急活動改善に成果を上げた。 施設からは好評で、救急車の現場滞在時間が短縮し、救急隊の医療機関問い合わせ回数も減少した。	
河内長野市消防本部 河内長野市消防署（20 人）		平成 27 年 7 月、河内長野市で自転車の男性が登山道から 200m離れた崖下へ転落した。 地上部隊が崖を降下し、男性を応急処置。続いて大阪市消防局航空隊のヘリコプターが男性を救出した。	
大阪市消防局 警防部航空隊 平野消防署（6 人）		日没が迫り、ヘリのプロペラが斜面の樹木に当たりそうな困難な条件だったが、地上の河内長野市消防本部と空の大阪市消防局警防部が連携し、大がかりな救出は見事成功した。	

消防団員の部

所 属	受 賞 者	功 績 概 要
貝塚市消防団	127 人	平成 27 年 3 月に発生した織布工場の大規模火災に全団員が出場。一致団結して長時間にわたる消火活動に力を尽くした。 消防署と見事な連携をとり、ドクターカーの誘導にも活躍。延焼を防ぎ、被害を最小限に食い止めた。
太子町消防団	115 人	「自分たちの地域は、自分たちで守る」をモットーに、地域ぐるみで自主防災意識を高めた。定期的に行う大規模な防災訓練の参加者は年々増加。バケツリレーや炊き出し訓練には子供から高齢者まで参加する。 二上山の遭難者捜索でも中心的存在。